

報告日 令和 6年 8月 13日 (火)	報告者 吉武惇二
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ：酒井伴四郎の江戸勤務日記
開催日時 令和 6年 8月 8日 (木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所 金沢公会堂第2会議室
参加人数 男性9名 女性4名 合計13名 (欠席者2名)	
<p>今月の学習会は、伴四郎の日記の8月1日から7日までを精読した。また、真田講師から先月に続いてA4サイズ1枚の「くづし字の一例」が配布され、頻繁に出てくる漢字のくづし字の具体例を示された。</p> <p>8月1日の日記によれば、「少々鰹にあたり候と見へ、叔父様、直助夜通し代り代り雪隠へ行き、下りづめ、扱予も昼より少々頭痛致し……」と、鰹による食中毒を起こし、下痢に苦しんだことが書かれている。当時の事情を考えれば、保存に必要な氷が簡単に手に入るとも考えられず、まして冷蔵庫の無い時代であるから、食中毒は容易に起こりえたことであろう。</p> <p>ところで、読者の皆さんは食中毒によっておなかを壊し、トイレに通い詰めた経験をお持ちではなかろうか。伴四郎日記が書かれた1860年代当時と現在とでは160年以上の隔りがあるが、今もって食中毒は身近なところにあることに気付かされる。この「小さな事件」を契機に、伴四郎はじめ叔父様、直助も暫く体調の回復に時間を要することになる。</p> <p>学習会終了後、恒例の懇親会「暑気払い」が開催された。</p>	
<p>次回予定 令和6年9月12日(木) 10:00~12:00 場 所：金沢公会堂第2会議室 テーマ：酒井伴四郎の江戸勤務日記</p>	